

02-1

トラベルクリニックが担う予防接種以外の役割と現状
～英文医療文書・帰国後診療・外国人診療について～○小田 健司¹⁾, 小田 典子^{1, 2)}¹⁾ おだ内科クリニック, ²⁾ 広島文教大学

【背景と目的】

トラベルクリニックでは感染症をはじめとする疾病予防が主要な役割で、受診目的は予防接種が大多数であるが、海外の学校への入学・転入申込書、就労や移住のビザ取得などの医療文書作成を求めて訪問する例も多い。また帰国後の体調不良者の診療、訪日外国人の診療なども我々のミッションである。今回、当院におけるワクチン接種以外の診療に焦点をあてて現状をまとめた。

【方法】

トラベルクリニックの役割を、(1) 渡航関連ワクチンの接種や予防投薬、(2) 各種診断書・証明書の作成、(3) 渡航前後の法定健康診断、(4) 帰国後体調不良の診療、(5) 訪日外国人の診療と分類。このうち(2)、(4)、(5)を対象とし、英文医療文書は過去2年間の申し込みフォームより集計。帰国後診療は一般診療の予診で1か月以内の渡航歴を持つ者1年間分を抽出。外国人診療は診療録より8年分を抽出し、それら受診者の内容を記録から分析した。

【結果】

◎「英文医療文書」

英文医療文書作成のウェブ申し込みは72名、男女比37:35、年齢0-55歳、中央値23歳、渡航先は北米38%、アジア24%、欧州10%など。入学申込書など既定の書式は49%で、記載用の所定の書類をメールに添付し送付できたのは56%であった。

◎「帰国後診療」

急性感染症を疑う症状の問診票で1か月以内の海外渡航歴ある場合、専用問診票を用いて調査を行った。期間は2016年7月から約1年間で30名(男22名、女8名)、渡航先は85%がアジアで理由は観光15例、仕事11例。帰国前の発症47%、帰国当日発症が10%、帰国後発症43%。空港検疫所職員との接触例なし。

◎「外国人診療」

2009年以降の受診者から抽出した126名。全受診者の1.08%を占める。旅行者に限定していないため97%が国内に、73%が市内に住所を有していた。受診理由はワクチンや検診などが26%、疾病が74%。疾病受診では74%が健康保険証を提示(国保54%、社保38%、共済7%)。外国語(英語)対応は必須であるが約9割は日本語でのコミュニケーションが可能であった。

◎3グループとも引き続き症例を集積中である。

【問題点・考察】

「英文医療文書」作成には事前に書類や母子手帳のメール添付ができるると便利。「帰国後診療」では帰国空港での気軽な相談や対応が望まれる。「外国人診療」の問題は言語の違いのため診察や事務対応に時間がかかる事であった。